

009

From Editor

011

表紙の時計／オメガ「デ・ヴィル」プレステージ

012

Editor's Choice!

ロンジンスピリット

ノモス・グラスヒュッテ「クラブスポーツ」ネオマティック ペトロール

ボーム&メルシェ「クリフトン」ボーマティックブラック COSC

フレデリック・コンスタント「ハイライフ オートマチック COSC

016

世界は時計で回っている。

018

バルミジャーニ「フルリエ」ロサ・セレステ

ウォッチ・メイキングとハンド・クラフトを統合したアート・ピース

020

クリスチャン・ヴァン・デル・クラウ「プラネタリウムアイゼンガー」リミテッドエディション、リアル・ムーンヤウレ

宇宙に二歩近づけてくれる、腕元のミニチュア「プラネタリウム」

022

ベル&ロス「BR-X5」

ミリタリーからアーバンへ。スクエア・ウォッチで独自の世界を築く

024

ラドー「ダイアスター」オリジナル60周年エディション、キャプテンクック「ハイテクセラミックダイバー」

「マスター・オブ・マテリアル」を標榜して60年、その最先端が誕生

027

ルイ・ヴィトン「タンブルジャック」マルミニッツ・リピーター

宇宙を巡る旅への誘い

032

ジャケ・ドロー「ブランド新戦略」ジャケ・ドロー80「ディスプレイ」レガシー

真の時計愛好家のために原点に立ち返り、大きく舵を切る

ジャケ・ドローはレギュラー・コレクションを廃止し、オーダーメイドを中心に製作する、という方向転換を打ち出した。これは18世紀の時計師「エル・ジャケ・ドロー」が築いた原点に立ち返るためのものである。その概要をみてみたい。

036

パテックフィリップ「2022年10月および11月発表の新作」

卓越した技術開発力と高度な宝飾細工でさらなる魅力を披露

042

オーデマピゲ「2023年新作」

技術力を最大限に発揮した超複雑時計にみる矜持

048 **2022-2023新作**

ロレックス、オイスターパーペチュアルデイープシーチャレンジ、A.ランゲ&ゾーネ、ツァイトヴェルク、
ローマン・ゴティエ、コンティニウム、チタンブレスレットエディション、カールF.ブハラ、カプセルコレクション、
ホーム&メルシエ、クラシマ、ビスポークエディション、
グランドセイコー、ヘリテージコレクション、キャリバー9S、25周年記念限定モデル、
エレガンスコレクション、セイコー腕時計100周年記念モデル、
シチズン、DENPA Limited Models YOAKE COLLECTION、
カシオGショック、MTG-B3000CX、GMW-B5000TCC、アドベンチャラーズストーン、
ジャガールクルト、ランドヴァー、ナチネ Peaceful Nature、ブレゲ、グイーン・オブ・ネイブルズ、
シャネル、マドモアゼル、プリヴェ、ピンクッション、ブライトリング、スーパークロノマットオートマティック 38 オリジン、
H.モーザー 2012-2022

065 **「VERY RARE」(極めて希少な)を基軸に独自の道を歩む**

2005年にスイスのシャフハウゼンを拠点に再興を果たしたH.モーザーは、2012年にMELBホールディングスの傘下となった。経営立て直しの
ために多くの改良が行われ、その結果、10年の間に大きな発展を遂げた。同社のエドゥアルド・メイランCEOを取材し、10年の歩みと今後の展望を伺った。
ポール・ウオッチ／フォルティス／ユンハンス／ルイ・エラル／モリスラクロア／オリス／クロノトウキョウ

073 **いま目を向けた良質にして良心的価格の時計たち**

ゼンマイを動力源として小さな部品が重なり合って時を刻む機械式時計は、人の心に訴えるものがある。これはスマート・ウオッチでは得ることができない、
特別なものにちがいない。確固たるポリシーをもって比較的手に取りやすい価格帯の機械式時計を市場に送り出している独立系ブランドにスポットを当てた。
時計も未来を考えるV

032 **長きにわたって培ってきた技やアートを未来に継ぐために**

文化的な伝統の継承は「持続可能性」の重要な課題のひとつである。今回は「伝統の継承」をテーマに、メティエダールに力を入れる
ヴァシロン・コンスタンタン、さまざまなアートの世界で活躍する巨匠たちが若手を指導するロレックスの「メントー&プロトジェ」などを紹介する。
腕時計新着情報

100 スイスの時計産業と日本を繋ぐスイス時計協会(FH)第7回

101 ブライトリング、ビーチクリーンアップ

宮城県名取市の閑上海岸でビーチクリーンを実施

102 ブルガリアウローラアワード

夢の実現を目指す才能ある女性たちを讃えて

104 《パテックフィリップ ウォッチアート・グランド・エキシビション》(東京2023)《

パテックフィリップの世界を体験できる最大規模の展覧会開催

105 アトリエ銀座／IWC新宿／NZONE神戸

106-112 インフォメーション／問い合わせリスト／次号予告

クリスティアン・ヴァン・デル・クラウウ、リアル・ムーン・ヤウレ、
プラネタリウムアイゼンジンガーリミテッド・エディション

宇宙へと二歩近づけてくれる、腕元のミニチュア・プラネタリウム

オランダの時計師クリスティアン・ヴァン・デル・クラウウの名は天文時計のスペシャリストとして知られる。機械式腕時計のなかに正確に天体の動きを表示する機構を納めた彼はすでに80歳に近いが、2009年から新体制下で天文時計に特化した製作が続けられる。



「リアル・ムーン・ヤウレ」。直径40.0mm×厚さ14.7mmのステンレス・スチール・ケースに自動巻きのCal. CVDK7382(テクノタイムCal. TT738+自社製CVDKリアル・ムーン・モジュール。35石、毎時2万8800振動、パワーリザーブ約96時間)を搭載する。サファイア・クリスタル・バック。グリーン・メテオラライト文字盤。5気圧防水。価格748万円。



ヴァン・クリーフ&アーペルは201

4年に太陽を中心に周回する惑星の動きを正確に表現した超複雑天文時計の「ミッドナイト・プラネタリウム」、次いで2

018年には木星と金星、地球が周回する「レディ・アーペル・プラネタリウム」を発表した。この開発に力を貸したのが、

オランダの時計工房クリスティアン・ヴァン・デル・クラウウであった。

時計師のクリスティアン・ヴァン・デル・クラウウ氏は天文時計に特化した時計製作で知られる。彼は1944年にオランダのライデンに生まれ、ライデン機器製作学校(Leiden Instrument Makers School)のウォッチメーカー・コースで学んだ。1

967年にはヤウレに移り、グラントフアーザー・クロックの製造に携わり、1974年に独立。天文クロックの製作を行い、ジョージ・ダニエルズやヴァインセント・カラブレゼらと共にスイスの独立時計師アカデミーのメンバーに名を連ねた。腕時計の製作を始めたのは1994年のこと

であり、ムーンフェイスとデイ・アンド・

ナイト表示、地球上の正午の地点を表示する機能を備えた「CVDK サテライト・

デュ・モンド」、次いで1999年には世界最小の機械式プラネタリウムを備えた「CVDK プラネタリウム」を発表した。

クリスティアン・ヴァン・デル・クラウウ氏が65歳を迎えた2009年にダニエル・レインテス氏とマリア・レインテス・ファン・ラール氏に経営を引き継ぎ、天文時計を専門とするブランドとして新たなスタートを切った。ふたりはデザイナーであり、時計のデザインに携わっている。

現在は5人の時計師を含む総勢10人で運営される。ムーブメントはテクノタイム社製をベースに自社で開発したモジュールを付加しているが、レインテス氏は「最近、ムーブメントの設計者が加わりました。今後も天文複雑機構を備えたモジュールの開発、設計に注力しますが、自社製ムーブメントの開発にも力を入れます」という。少量生産であり、2022

ルイ・ヴィトン ミッドナイトブルー ジャックマール ミニッツ・リピーター

宇宙を巡る 旅への誘い



ルイ・ヴィトンは「旅」とともに
その歴史を歩んできた。

それは1854年に創業した

トランク職人のルイ・ヴィトンに由来する。

時代が進み、旅は宇宙へと向かった。

ルイ・ヴィトン生誕200周年を記念した

2022年、宇宙旅行への夢を込めた

コンプリケーション・ウォッチが誕生した。

ジャケ・ドロー ブランド新戦略 ジャケ・ドロー80 デイスラップタイプレガシー

真の時計愛好家のために原点に立ち返り、 大きく舵を切る



ジャケ・ドローはオーダーメイドを中心に製作する、という大きな方向転換を打ち出した。これは18世紀の時計師ピエール・ジャケ・ドローが築いた原点に立ち返り、オートマトンの技術とメティエダールというふたつの個性をより強く打ち出すものである。その概要をみてみたい。

パテック・フィリップ 2022年10月および同11月発表の新作

卓越した技術開発力と高度な宝飾細工でさらなる魅力を披露

パテック・フィリップは昨年後半に2回に分けて新作を発表した。10月にはクロノグラフとノーチラスのバリエーション、11月にはハイジュエリー・ピースが登場した。多方面にわたる新作には今日の流れに沿いながらも一流を極めるブランドの底力が込められる。



ノーチラス フライバック・クロノグラフトラベルタイム 5990/1A

直径40.5mm(10時~4時位置)×厚さ12.53mmのステンレス・スチール・ケースに自動巻きのCal.CH 28-520 C FUS(34石、毎時2万8800振動、パワーリザーブ最大55時間)を搭載する。12時位置にローカルタイムの日付、6時に60分積算計、3時にローカルタイムの昼夜表示、9時にホームタイムの昼夜表示を備える。サファイア・クリスタル・バック。12気圧防水。ロック可能な調整システム付き折り畳み式バックルを備えるステンレス・スチール・ブレスレット。価格921万8000円。

ラグジュアリー・スポーツ・ウォッチの筆頭のひとつとして人気が高いノーチラス・コレクションには4つのモデルが加わった。2014年にステンレス・スチール仕様で発表されたフライバック・クロノグラフ、トラベルタイムの5990には既存のブラック文字盤に替わってブラック・グラデーションのブルー・ソレイユ文字盤を組み合わせた新作が目見えた。放射状のソレイユ仕上げと外に向かって濃さを増すブラック・グラデーションが生み出すニュアンスが特徴となっている。

2006年から2021年まで製造が続けられたステンレス・スチール・モデルの5711に替わる、18Kホワイトゴールドの5811/1が発表された。ケース径が前作よりも1mm大きい41・0mmに変更され、5990同様のブラック・グラデーションのブルー・ソレイユ文字盤を備える。ケースはオリジナルに倣って2体構造を採用し、ポリッシュとサテン仕上げが施される。リュウズの巻き上げと時刻合わせのふたつの機能を切り替えるオシドリとカンヌキの新たなシステムが開発された。

2006年にノーチラス誕生30周年を記念して発表されたムーンフェイズと日付、パワーリザーブ表示を備える5712は文字盤のレイアウトが特徴でもある。新たにブラック・グラデーションのブラウン・ソレイユ文字盤の18Kローズゴールド・モデルが追加された。

オーデマ・ピゲ「CODE 11.59 バイ オーデマ・ピゲ」、 「ロイヤル オーク コンセプト」、ロイヤル オーク オフ ショアの2023年上半期の新作 技術力を最大限に発揮した超複雑時計にみる矜持

オーデマ・ピゲは2月初めに数多くの新作を発表した。2023年は「ロイヤル オーク オフ ショア」が30周年を迎え、また「CODE 11.59 バイ オーデマ・ピゲ」は誕生から5年目となった。これらふたつの周年を軸に超複雑時計を筆頭に多岐にわたるモデルが登場した。



「CODE 11.59 バイ オーデマ・ピゲ スター・ホイール」。ブラック・セラミックのミドル・ケースとリュウズに18Kホワイトゴールドのベゼルとラグ、裏蓋を組み合わせる。ケース・サイズは直径41.0mm×厚さ10.7mm。自動巻きのCal.4310(32石、毎時2万8800振動、パワーリザーブ約70時間)を搭載する。文字盤はブルー・アヴェンチュリン。サファイア・クリスタル・バック。3気圧防水。18KWGのピンバックル付きテキスタイル調のブラック・ラバー加工ストラップ。価格715万円。左の写真は1990年代にオーデマ・ピゲが製作したスター・ホイール・モデル。

オーデマ・ピゲにとって複雑時計の開発は創業以来のテーマであった。今日では2021年に完成した新工房の「マニファクチュール・デ・セニョル」が開発を担っている。さて新作のひとつはオーデマ・ピゲでは20年ぶりに登場した「スター・ホイール」ウォッチであり、17世紀に発明されたヴァガボンド・アワー機構がコンテンツボラーな「CODE 11.59 バイ オーデマ・ピゲ」のケースに納められた。3枚のアルミニウム製ディスクが時刻を表示し、また回転しながら12時位置の120度の弧に記された分を示す。ムーブメントは自動巻きのCal. 4309にモジュールを加えたCal. 4310が新たに開発された。オーデマ・ピゲの技術力の結集ともいえる超複雑時計も「CODE 11.59 バイ オーデマ・ピゲ」コレクションに4つのバリエーションで登場した。1899年に製作した懐中時計の「ユニヴェルセル」へのオマージュであり、1100以上のパーツを納めながら直径34.3mm×厚さ9.1mmというコンパクトな設計の自動巻きのCal. 1000が開発された。40の機能を搭載するが、ケース側面の3時位置側の3つのリュウズと9時位置側のプッシュピースで操作ができ、永久カレンダーの調整もこれによって可能となっている。オープンワーク文字盤2型とレギュラー文字盤2型が揃う。詳細は後の号に譲りたい。

H.モーター 2012〜2022 10年の発展の軌跡

極めて 希少な

「VERY RARE」を 基軸に独自の道を歩む

2012年にMELBホルディングスの傘下となり、経営の立て直しが行われたH.モーターは10年の間に大きく発展した。認知度を高めるための多くの戦略が練られ、また若いチームの力が発展を導いた。CEOのエドワード・メイラン氏にオンラインでお話を伺った。



2022年に発表したH.モーター初のスケルトンの「バイオニア・シリンドリカル トゥールビヨン スケルトン」。直径42.8mmのSSケースに円筒形のヒゲゼンマイを初めて装備した自動巻きのCal.HM.811(26石、毎時2万1600振動、パワーリザーブ約74時間)を搭載する。

ボールウォッチ、フォルテイス、エンハンス、ルイ・エラール、モーリス・ラクロア、オリス、クロノトウキョウ

目を向けたたい個性豊かにして良質、良心的価格の時計たち

機械式時計の魅力は小さな部品が連なり、健気に時を刻み、それが自身の人生の時間の流れと重なるところにある。それは感性に訴えかけるものであり、正確な時刻を知らせてくれるスマート・ウォッチでは得ることはできない。巷で騒がれる人気を気にせず、自身の心に訴える時計を探そう。一度限りの人生だから、愛せる時計と過ごしたいもの。ここでは30万円台から50万円台を中心に提供する独立系の時計ブランドを取り上げた。



時計も未来を考える〈V〉

長きにわたって培ってきた技やアートを未来に継ぐために

「伝統の継承」は持続可能性の課題のひとつでもある。長年にわたって築かれた伝統は人類の遺産であり、これを確実に未来に継ぐための努力は現代に生きる私たちの責務といえる。今回はメティエダールの点でこの取り組みを行うヴァシュロン・コンスタンタン、幅広い芸術分野を対象に画期的な試みを行うロレックス、革新的なアイデアで機械式時計の技術を継承する独立時計師を対象とする賞を設けたルイ・ヴィトン、そして、エルメスの皮革工房とスイスでムーブメントの面取りのセミナーを開くアーティストを取り上げた。

Photo/Courtesy of Vacheron Constantin



ルーヴル美術館の額装工房はヴァシュロン・コンスタンタンが製作した「レ・キャピノティエ・エクストラフラット・ミニットリピーター 風神/雷神」に着想を得て四曲屏風を製作し、ヴァシュロン・コンスタンタンと共にホモ・ファーベル展に参加した(詳細はP90)。

【次号予告】

【特集】ウオッチズ&ワンダーズ ジュネーブ2023

3月27日から4月2日までジュネーブのパレキスポで開催されるウオッチズ&ワンダーズ2023。コロナ禍の影響を受けて、2020年から昨年までの3回はイレギュラーな発表会でしたが、今回はコロナ前の状態へと戻りつつあります。主催者側の組織体制も変わり、参加ブランドは昨年の38から48に増え、時計新作発表会の活気を再び感じられるフェアになることが予想されます。ブランド別の新作を紹介し、2023年の傾向を探ります。

【日本メーカーおよびスウォッチグループ等の新作】
セイコー、シチズン、オリエント、カシオ、そして発表会を行わずブランド毎に日本国内でお披露目をするスウォッチグループなどの新作をご紹介します。

「世界の腕時計」第156号は2023年6月8日発売予定です。

世界の腕時計 定期購読のご案内

毎号、送料無料でお届けします!

お近くに書店のない方、毎号確実に入手したい方
便利な定期購読を是非ご利用ください。
特別定価アップ分、および送料はサービスいたします。

【年間購読料】

1年間(年4冊) **7,200円(税込)**
(3月、6月、9月、12月・8日発売予定)



【お申し込み方法】

- フリーダイヤル 富士山 富士山
- お電話で(年中無休24時間受付) **0120-223-223**
 - インターネットから <http://fujisan.co.jp/sekainoudedokei>
 - QRコードから 上記QRコードからアクセスして下さい。

【お問い合わせ】

富士山マガジンサービスカスタマーセンター
パソコンサイト: <http://fujisan.co.jp/cs>
メールの場合: cs@fujisan.co.jp
に、お問い合わせください。

■注意事項

- 定期購読の契約は、富士山マガジンサービスとの契約となります。
- お支払いのタイミングによっては、ご希望の開始号が後ろにずれる場合がございます。
- 地域によっては、発売日より商品到着が若干遅れる場合がありますので予めご了承下さい。
- 定期購読は原則として途中解約はできませんので予めご了承下さい。

編集の都合上、内容が一部変更となる場合もありますので、ご了承ください。

ワールドフォトプレス総合サイト <https://www.monomagazine.com>

WORLD M O O K

ワールド・ムック1292

世界の腕時計

No.155

令和5年4月15日発行

発行人……………今井今朝春
編集人……………香山知子
発行所……………株式会社ワールドフォトプレス
〒166-0004東京都杉並区阿佐谷南1-12-1
アズ阿佐ヶ谷
編集部……………☎03-6383-2319 FAX.03-6383-2583
メディアビジネス部
……………☎03-5929-7682 FAX.03-6304-9443
販売部……………☎03-6383-2390 FAX.03-6383-2574
印刷所……………大日本印刷株式会社

- 造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がありましたら
小社・販売部宛てにお送りください。送料小社負担にてお取替えいたします。
- 本誌掲載記事の無断転載・複製・転写を禁じます。